

創建

そうこん

2002・3・25 VOL.36 NO.3 (通巻108号)

巻頭言／松井 壽則・1
ネットワークOB・OG・2
「博士への道」・4
平成13年度大学院修士論文テーマ一覧・5
私の履歴書・6
就職戦線かく戦えり・8
国家公務員試験I種合格者報告・9
平成13年度学内研究報告会・10
■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

昭和50年（1975年）に事業認可を受けた郡山駅前再開発事業も、二十有余年が過ぎた本年初頭に完成し、ようやく郡山市の顔が整った感があります。再開発事業は完成まで多くの期間を必要とはしているものの、この駅前再開発事業は計画の内容が二転三転したこともあり、このように長い期間を要したものと思います。

駅前広場を中央に配置し、それを挟むように路線バスのプールとタクシー・乗用車の昇降に供するロータリー、地上24階、地下1階、塔屋3階の約133mの愛称「ビッグアイ」が聳え立ち、駅ビルとはペDESTリアン・デッキで結ばれていることは、多くの人の知るところです。しかし、此处では事業の完成に要する期間の長さを云々するのではなく、事業認可の受けた時代と二十有余年経った現在において、私たちの生活に関わる環境・空間に対する考え方やそのあり方が大きく変わってきていることを述べたいと思います。

まず、その一つが、バリアフリー（BF）です。BFということばが使われ始めたのは1970年代前半で、それ以前は、「障害者のための（for the Disabled）」という表現でした。障害者の中でも車いす使用者を対象とした考え方がでしたが、徐々にその対象範囲も広がり、1981年の国際障害者年を契機にその対象は、いわゆる一時的に障害を有する人々にまで範囲を広げ、生活環境の改善を提案してきました。現在は対象者を子供から高齢者までをその範囲と考えら

れています。BFは障壁を除去することを意味し、心理的、物理的、社会的な障害を取り払うことです。つまり、その人の生活を保障する最低限の守るべきものと位置付けています。

さらに、もう一つの考え方がユニバーサル・デザイン（UD）です。最近よく、この「ユニバーサル・デザイン」ということばをよく耳にしますが、UDは、ノースカロライナ大学のロナルド・メイス氏によって1990年代に入って提唱されたもので

ユニバーサル・デザインの 思想とバリアフリーの目

松井 壽 則

す。氏はポリオによる障害を持つ建築家でもありましたが、その提唱した内容は、UD7つの原則としてまとめられてあり、私たちの生活環境を取り巻く、物、建物、空間など、すべてのものをできるだけ多くの人々が利・使用できるようにするという考え方です。つまり、特化されたあるいは限定された範囲に供与するものではないということです。そのためには、初めから障害となるものをつくらないという前提となる姿勢があります。しかし、BFの中にこのような考え方がないわけではなく、例えば前述した対象者の拡大による「より多くの人が使える」という考え方は、UDと同様の考え方を

内在していると思います。ただし、BFには、障害となりうる装置、建物、空間などの障壁を把握し、さらに、その障壁を除去するための方策を構築する姿勢があります。このように、BFは障壁を解消するという考え方で、UDは障壁をつくらないとする考え方であることから、障壁となる事項を発見するBFと障壁をつくらないように解決するUDとは、いわば車でいえば両輪の関係にあるものといえます。

ところで、このような見かたで郡山駅前広場を見てみると、さまざまな気づき、発見があります。ペDESTリアン・デッキと結ばれている多くの人々の利便性を考慮に入れたエスカレーターやエレベーターが設置されています。また、中央の広場およびタクシー等のロータリーには、視覚障害者に配慮した音声案内がある盲導鈴の設置、並びに視覚障害者用誘導・警告ブロックの敷設などが施されています。これらの設置された設備のみを検証するだけでなく、そこに至るための動線の簡便さ、サイン計画の適正さ、およびその見やすさなど、多岐に渡って見渡すと、障壁の発見があるであろうし、子供や高齢者並びに障害者などの利用者の目でみると更なる発見があるのではと思います。

建築に係わり合いのある私たちが、UDの思想を持ち、BFの目を備えて建物や街を探索することは、大いに意義のあることと理解します。

(助教授)



ネットワーク OB&OG ⑨

私の家づくりのテーマ「竪穴式住居症候群へ」

ファルデザイン一級建築士事務所
代表 田 中 マリ子

2002年春、当学部ご卒業の皆様本当におめでとうございます。そして、ご苦労様でした。4年間学部生としての学務を全うする事は、大変である事を良く知っています。でも、楽しめましたか。

今日のますます厳しい社会情勢では、皆様の気持ちが少し消沈気味かもしれませんが、誠意を持つ事、どんな困難な時でも前向きである事、この2つを忘れずに頑張ってください。今後の社会生活の中で、これまでの学部生活が基盤となって、皆様はきっと活躍できると信じております。

ところで私は、社会へ出て何年かは子育て等で中断しながらも、できる時間にできる形で建築に携わってきました。その中で家造りについて紹介したいと思います。

大概の人は、たとえ一時であろうとも、それぞれに拘りや憧れをもって家づくりへの思いを馳せます。まずは自分の部屋の置物から始まって、しだいに机・家具を移動しながらその範囲を広め、更に興味が継続してしまった為に、今や家づくりが仕事の一部となってしまった方が、沢山いらっしゃるでしょう。

住宅は、人を自然界から保護する為のシェルターである事と、人々が生まれて始めて関わる最小単位の社会生活の場である事の二つの役割が要求されています。従って最も身近な建物でありながら、それだけに誰もが最も数多くの夢やテーマを持ちうる性格のものです。



住宅を造る際のテーマは2つの役割に添って、やはり大きくは2つに分類されるのでしょうか。1つは工法や構造、材料や設備等の住宅の性能に関連したテーマですし、二つ目は色彩や形やボリューム、自然との関わりや人と

の関わり方といった感覚的な部分や住まい方の計画に関連したテーマです。もちろんそれらはバランス良く考慮されるべきですが、こだわりたいテーマを択一すれば、造りたい人の価値観に頼ることとなります。



この価値観の一部はその人の年齢や社会状況に応じて常に変化するわけですから“家は何回建てても満足できない”と良く言われていますが結構納得がいきます。とは言え住宅は個人の買い物のなかでおそらく最も高額でしょうから、その手伝いをする我々は年数が経てば経つほどいい家になる様最低限心がけたいものです。

固い内容はこの辺として、これまで手がけた住宅のテーマをいくつか思い出してみますと、

「最小敷地で建つ合理性追求の家」
「思い切りバリアフリー」
「磐梯山麓に建つ純木な家」
「本当に細長い敷地だよ!」
「円形階段と中庭」
「思い切って外壁板張り・・・メンテが心配」
「元気なお父さんは家相好き」
「吹き抜けは子供との一体感」
「蔵」、「北側採光の家」、「竪穴式住居症候群」
等があります。

この中で「思い切りバリアフリー」は、始めてバリアフリーに挑戦したもので、まだ設備の整っていない時期であった為お客様と一つ一つ部品をつくっていった思い出があります。この時は苦労の甲斐あって賞をいただきました。

また「磐梯山麓に建つ純木な家」は、内部において在

プロフィール

- ・一級建築士
- ・福島県建築士会会員
- ・住宅性能評価評価員
- ・福島県建築文化賞審査委員
- ・日本大学工学部非常勤講師
- ・福島県立郡山高等技術専門学校非常勤講師



来工法の架構をできるだけ見せ、木の力強さと暖かさを確かめました。

そして、「円形階段と中庭」はR形階段をデザインの一部に取り入れつつ中庭を配することで変化を持たせ、機能と特に形の総合的な統一を図ってみました。

最後の「蔵」、「北側採光の家」、「竪穴式住居症候群」の3つは2年前に手がけた私の自宅のテーマで、1つの建物に複数のテーマを導入しています。いわゆる一般のお客様の住宅では試せない内容を実践してみたかったです。

外観では「蔵」が好きでしたのでその形状をイメージし、外壁は白の漆喰塗りで腰壁にはガルバニウム鋼板の角スパンドレルを用い、軒天は斜めに切って同じく白の鋼板巻き。屋根は、真四角の建物に対し対角線に勾配をとりすっきりとさせました。

敷地からの景観は、北東側が美しかったのでそちらへリビングを配し、採光も夏の強い光は南の隣家に影をつくってもらって日射を避け、北側の安定したやさしい光を優先してみました。

住み方要求では、建物強度はなるべく外壁に負担させ、竪穴式住居のワンルームをイメージして間仕切りはできるだけ排除しました。特に2階は全てオープンで1階と吹き抜けて空気や音が全て一緒。子供どうして陣取りゲームをして自分たちの工夫で区切らせる方針です。竪穴式住居、これなら多少の価値観がちがってきても対応できそうではないですか。

今後は、時代の流れに添って本気でエコ住宅をテーマに考えてみたいと思っています。

(非常勤講師)



「博士への道」 シリーズ No.2

博士論文：動的非線形シェル理論に於ける基礎式のOrder評価に関する研究
授 与 校：日本大学 昭和52年1月

教 授 倉 田 光 春



若井先生に、「創建」の原稿を頼まれ気軽に引き受けた。タイトルが「博士への道」とのことである。その時は「ちょっと困ったな」と思ったものの雑事にかまけ忘れてしまった。罰が当たったのかその後風邪をこじらせた。咳がでて気管支炎を起こし治らず嫌な予感がしていたら、案の定、研究室の机の上に私宛の茶封筒が置いてり、それも若井先生の日付入りである。中身は当然、前略で始まる再度のお願い「2月に入り、朝夕一段と冷込みが厳しくなってきました…」とある。文字数が2000字と400字ほど増えていた。気持ちまで冷え込み、咳がしきりとでて、熱も上がり最悪である。また、参考にと、大濱教授の「博士への道」シリーズNo. 1の掲載された創建が同封されていて、その中で「…博士後期課程への進学者は、相変わらず少なく、…このような進学者低迷の現状を憂いて、…この「博士への道」シリーズを企画…単に、私の経験した博士取得のプロセスのみを書いて仕方がないと考え、…」と明文を書いて居られ、書こうという気持ちが萎えてしまった。シリーズものの二番手がこんなにも難しいとは！学生諸君にこの気持ち理解してもらえるだろうか？ ますます咳こみ、その度に頭がガンガンと響き、熱で顔が火照ってきたようだ。しかたがない！

私どもの研究室に入って直ぐ左手の「張り紙」ご存じか？ だいたい前から張ってある。私どもの研究室の者は知っていて当然、他の人も見て居ると思うが、念のため！「まず、心（気持）を変えよう。心が変われば、態度が変わる。態度が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。」確かに、20数年余の人生の全てを変えるのは不可能だろう。その意味もない。しかし、今まで培ってきたものを活かし、学生諸君の夢に向かって、いかようにも変われることを知って欲しい。まだ、時間と機会は十分にある。焦らず時間をかけよう。

博士、それは学（識）の最高位である。周知の通り、その基礎は幼稚園、小学校にはじまり、中学校、高等学校で終える。さらに大学卒業後「博士への道」がはじまり、一般にそのコースは、大学院博士前期課程2年間、博士後期課程3年間の5年間で修了する。その後、博士として、研究者の道へ踏み出すのである。過ぎし跡、

「学びの足跡」を思い出して欲しい。親元で3年、年少を含む幼稚園3年の6年間は「創に言葉あり」である。小中学校9年間は「読み書き、計算、幾何そして証明、その他」、高等学校3年間は「学問の基礎」、大学4年間は「学問」そのものである。そして「博士への道」の基礎、基本が何であったか？「学びの足跡」は、以前「博士への道」そのものであった筈。「博士への道」である大学院博士前期（修士）課程2年間は、学んだことを試し、心に問い、見るべきものを見る[先人の研究を追試し、自然の理（真理）に照らし、新しきものへの道標を見つける]その力を養う。博士後期（博士）課程3年間は「新しきもの」をまとめ公表する。「古きを尋ね、新しきを知る」、「古き博士への道を尋ね、博士への道を知る」である。

学ぶ意欲やその力は、基礎、基本の反復から生れ、単純な計算などは、人間の脳を活性化するという。また、「人間の一生は、20から30才までは昇る太陽、40から60才までは日中の太陽、70から80才の間は落つる太陽」と喩えられる。博士への5年間は、側からは長く大変に見え、しかし、本人にとって、昇る太陽は、速くて短い。着実に、必要な基礎、基本を反復したいものである。思いつき、閃きはその中から生れ、試行錯誤を繰返し、新たな発見、知見そして予測、予見あるいは仮説の証明となる。それは「新たな夢の世界を覗かせてくれる道具」であり、「夢を現実にする力」そのものである。これらが新たに、学識という知的共有資産となり、それは「人類が人間として生れしその数千年の歴史の中で見出し伝え蓄積してきたもの」、すなわち「人間としての証」である。生れ出でし、数ある生き物の中で、人として生れしは奇跡！それは「人と生れ人間として生きることのできる幸せ」であり、「よこびそのもの」である。

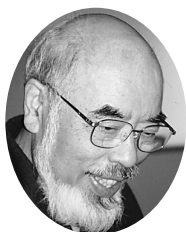
新たな思いつき閃きの源は、人との出会いの中の「感動」、「感謝」、「感激」であり、人間の「好奇心」であるという。「才が有っても、度量がなければ人が集まらず。」従って、度量も必要、磨きたいものである。また「度量が有っても、才がなければ事が成らず」である。「志気は鋭く、守り行うのは、義をもって、品望は高く、識量は広く、学、技、芸は深く、ものの見方は真実」でありたいもの。最後に、物事を成就するためには、まず、誘惑を斥け、志を立て[発心]、次に実行に踏み出し[決心]、成功するまで継続しなければならない[持続心]。お互い難しいことだが、僅かでも、日々精進したいものである。

平成13年度 大学院修士論文テーマ一覧

- ・安藤 宏徳 (指導教官 狩野 勝重)
「歴史的遺産」と「都市整備の理念」
- ・五十嵐 太 (指導教官 大濱 嘉彦)
ポリマーセメントモルタルの性質に及ぼす高性能減水剤の影響
- ・伊東 克巳 (指導教官 若井 正一)
就寝まわりの生活スペースに関する研究 ―就寝に必要な身体領域に関する一考察―
- ・伊藤 知行 (指導教官 佐藤 平)
高齢者余暇活動施設の複合化に関する基礎的研究
- ・岡本 賢 (指導教官 若井 正一)
官庁型オフィスの窓際着座者からみたVDT作業環境に関する検討
- ・小川 裕和 (指導教官 土方 吉雄・佐藤 平)
インターネット活用によるまちづくりワークショップ手法に関する研究
―船引町中心市街地活性化基本計画策定のためのワークショップをケーススタディとして―
- ・小沼 槇子 (指導教官 土方 吉雄・佐藤 平)
都市基盤整備事業等における住民意識を考慮に入れた事業評価手法に関する研究
- ・勝畑 敏幸 (指導教官 大濱 嘉彦)
鉄筋コンクリートのインテリジェント化への試み
- ・金子 能也 (指導教官 若井 正一)
公共の場における喫煙者の行動特性に関する基礎的研究
- ・栗原 隆 (指導教官 若井 正一)
フレキシビリティのある建築的場面の構築に向けた設計手法
- ・郷間 崇文 (指導教官 佐藤 平)
地方都市における都市複合型老人保健施設の提案
- ・佐藤 文人 (指導教官 出村 克宣・大濱 嘉彦)
耐水性せっこう硬化体を用いた人工木材の開発
- ・佐野 昌秀 (指導教官 三浦 金作)
水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究 ―夜間景観の分析を通して―
- ・鈴木 真人 (指導教官 若井 正一)
インテリアの業務実態からみた資格職能と標準業務に関する調査研究
―インテリア工事の標準仕様書(試案)について―
- ・高野 洋平 (指導教官 若井 正一)
臥位における上肢作業域に関する人間工学的研究
- ・橘 浩二 (指導教官 岩崎 博)
土壁設計仕様標準化に関する研究
―土壁の基礎的性質による近畿産、南東北産及び北関東産壁土の分類―
- ・田綿 隆文 (指導教官 土方 吉雄・佐藤 平)
街並み構成材料の地域特性に関する調査研究
―業務中心地区における都市の空間価値と外壁材料―
- ・趙 瓊 (指導教官 佐藤 平)
高齢者福祉施設における日本と中国の比較
- ・濱村 幸司 (指導教官 岩崎 博)
土壁のタバコ煙吸着―放散特性 ―土壁等内装材料とスギ及びガーネット混合土壁との比較―
- ・増子 順一 (指導教官 若井 正一)
室内構成要素としての身体尺度に関する計測研究
- ・諸井 洋平 (指導教官 倉田 光春)
セメント系接着剤およびエポキシ樹脂を用いた連続繊維シートRC梁の曲げ耐力に関する比較検討
- ・門馬 陽一 (指導教官 三浦 金作)
密集市街地におけるオープン・スペースの整備実態に関する研究
―東京都A区のプチテラスを事例として―
- ・山口 貴広 (指導教官 佐藤 平)
福島県における身体障害者福祉センター A型の提案
- ・山本 渉 (指導教官 佐藤 平)
特別養護老人ホームにおける入居者の居場所利用に関する研究
- ・横尾 忠幸 (指導教官 千葉 正裕・倉田 光春)
細長い平面形を有する建物の立体振動性状
- ・横堀 剛一 (指導教官 有賀 保二・佐藤 平)
住民参加のまちおこしからまちづくりへ
- ・佐藤 康行 (指導教官 倉田 光春)
構造形態と感性情報の定量化に関する基礎的研究

私の履歴書① 偉大な建築家になれ!

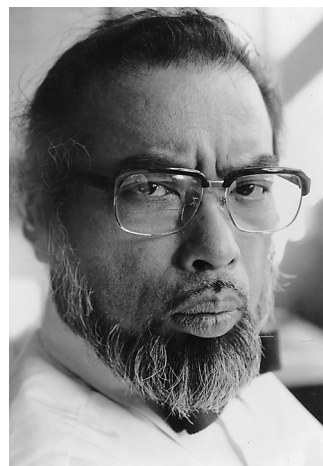
非常勤講師 佐藤 昭一



昭和2年生れの私は、まさに昭和の激動期を生きてきた。その出発は否応無しに、お国の為に、巨大で不可思議なものを信じさせられ、それとどう向き合うかだった。しかもそれは絵画への志を通して。自然を見つめ親しむ中から印象派にひかれ、

その延長線上で、自我のめざめと共にセザンヌを発見する。後期印象派が近代美術の自我の確立を成しとげたことと歩を同じくする。受験実技の石膏デッサンの苦闘の末、めざす美校入学。その探求は続く。世界の情報が隔絶された中で、20世紀以後の改革者達。マチスやピカソは。どんな生き方や仕事を。純粹絵画ということばをはきながら、写実を主としていた級友達との論争をひき起す。聖戦美術。多くの画家達が従来画家として、戦意高揚の為に描かざるを得なかった最中だった。この中で時流に流されず、己の画風を求め続けていた、安井、梅原教授が学制改革によって教えを受けたことを誇りに思う。梅原先生は、伊豆大仁で富士と対決していた姿に接し、強烈な芸術魂に感銘を受ける。又学徒動員で甲府の飛行学校に配属中、引率の久保守助教授は、戦局の話題中「傘をさして、そのうち雨のやむのを待ちましょう」と。彼の留学中のヨーロッパの精神にふれた話を思い出す。終戦前後、油絵科私を含め4名、市ヶ谷の陸軍大本営総監部に配属。全科の級友は全国各地の軍部に。在京で戦火の中、絵が描け、近代絵画への推移を模索できた。暗い日々の中、徐々に非具象の方向が見えて来る。辛うじて兵役につかず、終戦をむかえた時のこみあげる喜びを忘れられない。だが昭和21年、国鉄より華中鉄道の中

国に渡った父は死亡。昭和23年卒業までの苦境を乗り切り卒業制作。対象を解体し、自然にかえる往復運動を。母、弟妹を見る立場から郡山に帰り中学校の美術教師となる。私の第二の出発だ。教育と自分の絵画との両立。画学生で培った芸術への目ざめとつき動かすもの。東京を意識的に隔絶し、孤独の中で制作。後年、美術教育と絵画の両面



1960年代・中学教師時代

で、級友や戦後美術を推進する画友との交流が再開される。ここで私の履歴書の書き出しは終る。現在やっと二足のわらじがぬげ、よりよい仕事はこれからだと。

何かをつかもうとした卒業生の諸君達。今その出発点に立っている。将来の課題解決は、その継続と延長線上で徐々に形成される。偉大な建築家になれ!。幸いなるかな。人間生活を見つめる豊かな人間性を内包する建築を。幾多の苦境と挫折を乗り越えて。明日の創造性豊かな建築をめざすことを祈りながら。(担当科目:造形演習)

編集室より:「私の履歴書」は、各界各分野で活躍する本学科非常勤講師の先生方にご執筆いただく新シリーズである。はからずも本号では、本年度末をもってご退任される佐藤昭一先生と春山哲郎先生にご執筆いただいた。お二人とも、本学科で20年余にわたり教鞭をとられた。今回の掲載にあたり、佐藤先生からは初期の代表作品や貴重な顔写真を、春山先生からは素描作品をご提供いただいた。

ここに深謝したい。なお、本館1階E Vホール脇の絵画は、佐藤先生より本学部に寄贈されたシリーズ「透過」の大作(100号)である。(若)



第2回県展文部大臣賞受賞作品「石膏とマンドリンと私」(1948)



シリーズ「人間」(1991. 第3回個展. 於草月会館)

私の履歴書② 「私の履歴書」の一つにピリオドを打つにあたって

非常勤講師 春 山 哲 郎



私の経歴の一つ、「日本大学工学部建築学科非常勤講師」に、2002(平成14)年3月をもってピリオドが打れます。1980(昭和55)年4月、同じく非常勤講師だった親父の急逝の後、辞令を頂戴し、以来22年、大変お世話になりました。親父も1949(昭和24)

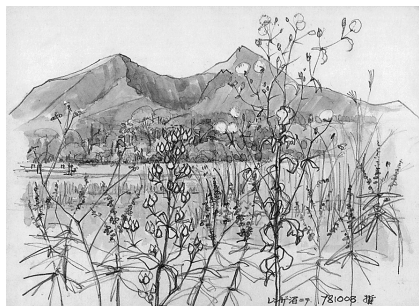
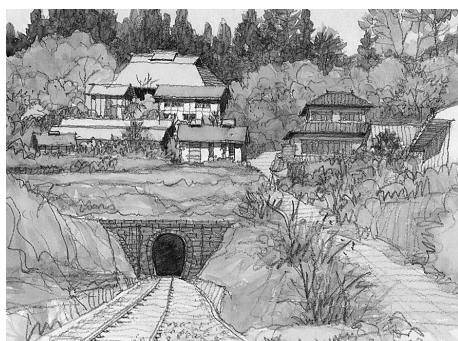
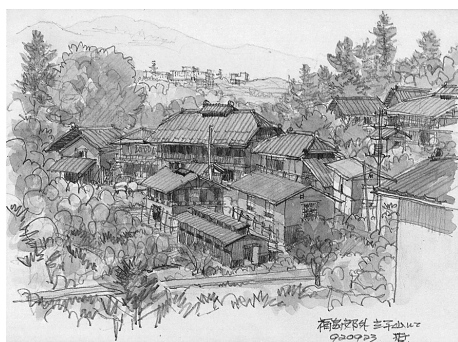
年からでしたから、32年、親子二代、合わせて半世紀余お世話になった次第です。どれだけお役に立てたかは定かではありません。むしろ先生方や若い学生さん達にパワーをもらい、勉強になった事の方が多かったかもしれません。有難うございました。

又、去る2月4日～6日、建築学科のご好意により、54号館2階会議室にて「哲郎・故新三素描展」を開催、大勢の皆さんに見て頂く機会をつくって頂きました。うれしい感想文も沢山頂きました。この紙上をお借りして重ねて厚く御礼申し上げます。

経歴の「趣味」の欄には、いつも「絵画、ペーパーナイフ蒐集」と書いてきました。これには、ピリオドはありません。これからも続けていきたいと思っています。

社会情勢の変化、技術革新、教育の多様化、設計製図もCADの時代と様変わりしてきています。しかし、人間の感性、独創性、真実の追及、創造力等の重要性は、いささかも変わらず、むしろこのような時代だからこそ大切なことだと感じています。そして人との対話(機械との対話ではなく)は、一層重要に思えてなりません。ここ数年、設計演習Ⅳの課題の中で「グループ設計」を、ゼミでは「デッサンのすすめ」を試みてきました。「手を動かさない、絵を描きなさい」といつてきました。終わったら感想文を求め、建築とは何か、人生とは何か、返事を書いてきました。多少の手応えがあったように思えます。

未来に翔く学生さん達が輩出し、建築学科が益々発展することを祈念いたします。(担当科目:建築設計演習)



就職戦線かく戦えり



財団法人 道路サービス機構

大学院 伊東 克巳

リクナビ登録。就職活動はここから始めました。ネットでの情報収集が速いと考えたからです。2月頃から、住宅業界をメインに受けましたが、最初は一次試験落ちが殆どでした。原因はSPIと面接でした。面接は場数を踏むうちに先へ進めるようになりましたが、最終の詰めが甘かった気がします。SPIは対策本を読むべきでした。

気付けば1社も決まらないまま6月に突入してしまい、別業界を考え始めた時に先生から紹介して頂いたのが、道路サービス機構（高速道路の全国のSA・PAを管理している財団）でした。私は、高速道路を利用する機会が多いこともあり、本社で事業内容の説明を受けているうちに、私達の生活に身近な存在であり、また社会に貢献できる事業内容に非常にやりがいを感じ採用試験を受けました。

無事に届いた内定通知で就職活動は終了しました。普段何気ない身近なものが、将来の職場になることもあります。最初から自分の進む方向を固定することも良いと思いますが、少しだけ別の角度から周りを見ることも、新しい発見や出会いにつながる可能性がひとつ増えます。



清水建設(株)

学部 高橋 晋

『一部上場の逆指名を断ったのち、在来木造住宅メーカーからの一方的な内定取り消し、教員採用試験不合格』と、すべてを失ったのが4年の9月でありました。

私は、大学入学前から教員と建築の道を模索していたため、現状を認めることができず途方に暮れておりました。そんな時、ある世界的識者の言葉を目にしました。

『挑戦しなければ失敗もない。創造もない』と。目が覚めるようでありました。無意識のうちに何とかなると思っていた自分の甘さに腹が立ち、今こそ立ち上がる時と定め、再出発する事ができました。そして、偶然とは思えないタイミングで自分の願いの分野に就職を勝ち取ることができました。

異なる職種を選択していた私は、一見したら中途半端な行動に見えるのかも知れません。しかし私は、社会を動かし明確に指揮・指導の出来る人間を願ひ、貰った結果として全て叶えておりました。ゆえに、自分の人生とは自分の勇気でしか切り開けないと断言し体験談と致します。



(株) エスパス建築研究所

学部 市毛大路郎

2月の中旬から私は、就職活動を始めました。私はやりたいことができる会社にしか興味がなかったため、TV局の大道具やゲーム業界、パソコン業界など建築に関係のないような企業も受けました。建築業界の会社説明会では、どの企業も同じような説明をされましたが、他業界の説明会では初めて聞くような言語が飛び交い、面接ではいつも自分の売りとするものがなかったので大変でした。でも、今考えると、そのときの経験がとても役に立ったと思います。実際、建築業界の面接では自分の知っていることを素直に話せばよかったので、緊張せずに話すことができ、面接で落とされるということは極端に減りました。私が、最終的に選んだ構造設計事務所でも、自分のわかる範囲で面接の受け答えをし、私が目指している「デザインする構造家」というスタイルを伝えることが出来ました。

私は就職活動に関わらず一番大切なことは、自分を伝えるということだと思っています。

編集室より：本頁の特集は、本年度卒業・修了される学部・大学院生の中から各業種に内定した諸君に執筆いただいた。今後の活躍を期待したい。長引く景気低迷の中、後

(若)



福島放送（アナウンス職）

学部 稲葉 陽子

私の就職に対しての意識は早い時期からあり、3年の夏休み明けから週に1回、東京のアナウンス学校に通っていました。採用試験もほぼ同時に始まり、その後内定を獲得するまでの約13ヶ月間は、まさに自分自身の体力と精神力との戦いでした。試験のピーク時は、長野、富山、山形と試験日が3日連続し、その間、締切目の迫る他局のエントリーシートを新幹線や宿泊先へ持ち込む事もありました。どの局も書類選考があった為、力を抜くことは許されませんでした。実際の試験はとてもシビアで、短いものは2、3分の面接で合否が出ました。思う結果が出ないと、自分の不甲斐無さに苛立し、努力の仕方が分からなくなり、体重が4kgも減る程のストレスを感じることもありました。

こんな生活が8ヶ月を過ぎようとした夏、4月に住宅メーカーの技術職の内定をもらっていた事もあり、この就職活動に疑問を持ち始めました。「アナウンス職とはこまで目指すものなのだろうか・・・」そこで私は、マスメディアの世界を経験した上でもう一度自分の進路を検討したいと考え、約1ヶ月間、バンコクのテレビ局で日本語講座のキャスターを務めるなどし、アナウンス職に触れてみました。そこには、私の想像以上の楽しさと道り甲斐がありました。その後、心中の迷いは一切無くなり、卒業式前日まで就職試験がある限り受け続けようと思いを固めました。それから4ヶ月、福島放送から念願の内定を頂く事が出来ました。

『80/10000これは『全国のアナ職内定者/全国のアナ職志望者数』です。今は、この熾烈な戦いの場に我が身を置き、最後まで夢を諦めなかった自分に誇りを持っています。そして、どんな時も励まし、私の内定と一緒に喜んでくれた先生方、先輩方、友達そして両親には感謝の気持ちでいっぱいです。

国家公務員試験Ⅰ種合格者報告

本学大学院修了の松下氏は、超難関といわれる国家公務員Ⅰ種(建築職)に見事合格した。その体験について、記述していただいた。

松 下 信 禎



これまで試験と呼ばれるものを、いろいろと受けてまいりましたが、基本的に継続して学習することと何度でも挑戦する姿勢を保つことが大切だと思います。

私の場合には、一級建築士に受かるまでに何年か掛かりましたし、公務員試験の場合にも受かったり落ちたりしましたが、すべて大学を卒業してから受けましたので、大学卒業時を含め、その後も進路は様々に考えられると思います。

さて、国家公務員一種試験の対策ですが、記述式の試験については、学校で教えても貰えますし、市販の教材も色々と販売されていますので、特になかなか教えてもらえない服装や面接についてお話ししたいと思います。

始めに服装についてですが、個人的な見方かも知れませんが、地味目の服装がお勧めです。男性なら黒色系又はグレイ系の背広、女性の場合も同様に仕事に差し支えない格好が良いようです。個性も求められますが、服装ではなく中身で勝負したいところです。

面接に関しては、どこの省庁でも始めに面接カードを記入します。記入内容は、志望動機・受験動機、志望する職種・仕事・分野、専攻した分野・得意とする分野、最近関心や興味を持った事柄(社会生活、時事問題、世界情勢など)、印象深かったこれまでの体験(学生生活、アルバイトなどの経験を通して、ボランティア活動での体験を通してなど)、特技・趣味、自己PRなどです。

省庁により多少記入内容は異なりますが、面接官はこの面接カードの内容をもとに面接を行ないます。

省庁等に行ってからその場で面接カードを記入する事になりますが、あらかじめ履歴書を作成し、自分自身についてまとめ、面接カードの記入項目についても前もって作成しておくといいでしょう。

面接カード記入のポイントとしては、詳しく書かないことと回答できることしか記入しないことです。詳しく書かない理由は、面接官がカードをもとに質問を行ないますので、あまり詳しく記入してしまうと、質問事項が非常に難しくなってしまいます。そこで逆に質問をされる余地を残しておく方が面接官は質問をしやすいですし、受験者も回答しやすくなります。

また、面接官の質問に対する回答を行なうと、次に受験者の回答に対して更に質問がされますので、何を聞かれても自信を持って答えられる内容を面接カードには記入

しておく事が得策です。

次に面接の形式ですが、受験者に対する面接官の人数は様々で、面接官が1人のマンツーマン形式の場合もあれば、4～5人に囲まれた形式もありました。

時間は15分から30分程度で、人によって時間は異なりますが、時間が長いから或いは短いから良いとも悪いとも言えないようです。

面接時のポイントとしては、これは公務員試験に限らず、民間の企業でも言えることですが、明るくハキハキと大きな声で、自信を持って答える事です。

記述式の試験に合格すると次に二次試験になります。二次試験の専門試験については、市販されている過去の問題に目を通しておく必要があります。建築分野で受験する人は、試験問題が設計製図なので、事前に図面を書いてみると良いでしょう。意外に時間が掛かります。

論文試験については、奇抜な考え方や新しい着眼点があるかどうかと言うことよりも、理論正しく物事を説明出来るかどうかと言う点に重点が置かれているようです。

全体的な傾向としては、昨年度より受験区分の再編成があり、以前より問題の難易度がさがり、試験内容の幅が広がっているようです。受けてみた実感としては、地方上級の試験よりやや難しいといった感じです。

内容的には、以前の問題より学生向きになっていると言えるでしょう。

受験を行なう上では、前向きな姿勢が大切になります。面接等の連絡は、自分から積極的に行い、スケジュール管理をすることが必要です。

省庁によっては、予約時間に官庁訪問しても、何時間も待たされることがあります。余裕を持って行動をしたいものです。

また、省庁によっては、地方からの受験者に対して、一次、二次面接を同日に行なって貰えるなど良心的な官庁もあるので、面接連絡時に聞いてみるのも良いでしょう。受験を検討している人は受験区分や過去の傾向等を知る事が出来るので、ぜひ一度人事院のホームページを見ていただきたいと思います。

(人事院HP <http://www.jinji.go.jp/top.htm>)

最後に、試験の為に勉強しても意味はありません。自分の活動の場を広げ、自己実現の手段の1つとして学習することが、大切であると思います。公務員を目指す人は目標に対し頑張ってもらいたいと思います。

(平成8年3月 大学院修了)

第44回 日本大学工学部学術研究報告会

開催日：平成13年12月 8 日(出)

建築学会特別講演

- ・ 建築研究のニーズとシーズ ―土壁を通じて探る―

岩崎 博

<建築学会・研究報告>

- ・ 土壁のタバコ煙吸着―放散特性―
―その22 土壁とスギによる内装室内のタバコ煙有害化学物質の濃度比較―
○濱村 幸司・岩崎 博
- ・ 壁土の基礎的性質による産出地域別分類 ―その18 近畿地方産及び福島産壁土の吸放湿履歴特性―
○橘 浩二・岩崎 博
- ・ 亜硝酸型ハイドロカルマイト ―アミノアルコール誘導体系セメントモルタルの基礎的性質―
○高橋 忍・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ 高性能減水剤添加 S B R 混入ポリマーセメントモルタルのフレッシュなときの性質
○五十嵐 太・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ オートクレーブ養生ポリマーセメントモルタル及びコンクリートにおける予想されるポリマーの耐久性
○大濱 嘉彦・出村 克宣・朱 明基
- ・ 硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さに及ぼす養生条件の影響
○勝畑 敏幸・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ 耐水性せっこう硬化体の軽量化及び繊維補強の試み ○佐藤 文人・熊谷 慎祐・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ 廃せっこうボードからの回収せっこうを用いた硬化体の基礎的性質 ○熊谷 慎祐・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ 廃発泡ポリスチレン―廃木材複合体の強さ性状― ○倉 洛運・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・ 細長い平面形を有する建物の立体振動性状 ―その1 常時微動測定―
○横尾 忠幸・倉田 光春・千葉 正裕・浅里 和茂・日比野 巧・清水 優
- ・ 細長い平面形を有する建物の立体振動性状 ―その2 周期特性および変形モード―
○清水 優・倉田 光春・千葉 正裕・浅里 和茂・日比野 巧・横尾 忠幸
- ・ セメント系接着剤およびエポキシ樹脂を用いた連続繊維シートRC梁の曲げ耐力に関する比較検討
○諸井 洋平・倉田 光春・外山 隆吉・Sanjay Pareek
- ・ 円形鋼管材を用いたラチスドームの弾塑性解析に関する基礎的研究 ―電線鋼管材の残留応力推定―
○渋川恵里奈・倉田 光春・野内 英治
- ・ 情報ネットワーク構築に伴う建築の役割と可能性 ○高井 俊先・倉田 光春・野内 英治
- ・ G U I による構造モデルのデザイン支援システム ○茂木 博之・倉田 光春・野内 英治
- ・ 老人保健施設の空間構成に関する研究 ―入浴介助行為時の滞留様態からみられる周辺空間の利用実態―
○古田部晃弘・佐藤 平
- ・ 高齢者余暇活動施設の複合化に関する基礎的研究 (その2)
―「生きがい通所事業」や各種団体の取り組みにおける余暇活動施設の対応について―
○伊藤 知行・佐藤 平
- ・ 高齢者施設における日本と中国の比較 ○趙 瓊・佐藤 平
- ・ 障害者スポーツ施設に関する研究 ―身体障害者福祉センター A 型の提案― ○山口 貴広・佐藤 平
- ・ 老人福祉施設に関する研究 ―地方都市における都市複合型老人保健施設の提案― ○郷間 崇文・佐藤 平
- ・ 特別養護老人ホームにおける入居者の生活空間に関する研究
―H施設における共用空間内の配置物品の変更による居場所形成について― ○山本 渉・佐藤 平
- ・ 福島県K町ひとにやさしいまちづくり総合計画策定のための基礎的研究
―やさしいまちづくりに対する住民意識― ○及川 剛・佐藤 平・田村 誠邦
- ・ リフォームヘルパー制度利用による住宅改造の実態とその効果に関する研究
―ケーススタディ・玄関廻りの改造について― ○岩根 敦・佐藤 平
- ・ 福島県公営住宅における住戸内居住環境に関する研究
―冬季及び夏季の地方別団地特性と住まい方について― ○仲澤 秀正・松井 壽則
- ・ 「建築遺産」と「都市整備の理念」 ○安藤 宏徳・狩野 勝重
- ・ 資源循環型社会の構築に関する研究 ―その2 建設廃棄物処理の現状― ○浦 憲親 (金沢工大・建築)
- ・ 資源循環型社会の構築に関する研究
―その3 石川県内におけるコンクリート廃棄物処理の現状― ○浦 憲親 (金沢工大・建築)
- ・ 住民参加のまちおこしに関する研究
―「蔵のまち」喜多方のケーススタディ― ○横堀 剛一・佐藤 平・有賀 保二
- ・ ツリーハウスによる里山整備計画 ―福島県岩瀬村における試み―
○山口 廣訓 (足工大・建築)・蟹江 好弘
- ・ 水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究 ―商業系広場における夜間の空間特性―
○佐野 昌秀・三浦 金作・土方 吉雄
- ・ 水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究 ―探索歩行時の歩行経路について―
○佐野 浩史・三浦 金作・土方 吉雄
- ・ 水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究 ―観光対象の立地実態について―
○田邊 和義・三浦 金作・土方 吉雄
- ・ 郡山市中心市街地の市街地整備手法に関する研究 ―その4 駐車場の利用実態について―
○岡崎 敏也・土方 吉雄・三浦 金作・安福 直柔
- ・ 都市基盤整備事業における事業評価手法に関する基礎的研究
―その2 住民意識評価による事業評価指標の検討― ○小沼 慎子・土方 吉雄・三浦 金作
- ・ まちづくりへのインターネット技術活用の有効性に関する研究
―デジタルワークショップの試み― ○小川 裕和・土方 吉雄・三浦 金作・安福 直柔
- ・ 街並み構成材料の地域特性に関する調査研究
―その3 外装材料の色彩における性能価値と都市の空間価値との関係―
○田綿 隆文・土方 吉雄・岩崎 博
- ・ 新しいドラッグストアの提案 ―医薬分業に向けた試案― ○荒川 正人・若井 正一

- ・通過移行動作時の身体動作特性に関する研究 その2 ―頭上のアキ寸法と個人差について―
○野崎 弘之・若井 正一
- ・MM21地区における多自然型ふれあい空間の提案 ―食べられる森・親しめる海―
○嶋崎 雄一・若井 正一
- ・就寝に必要な身体領域に関する研究 ―箱状寝具を想定した就寝まわりの必要スペースについて―
○伊東 克巳・若井 正一
- ・可変性のあるライフステージの提案(その2) ―Guru/Guru Kitchen―
○栗原 隆・若井 正一
- ・児童期の地域における遊び環境と帰属意識に関する研究 ―東京におけるケース・スタディー―
○市岡 綾子・若井 正一・高橋 鷹志
- ・インテリアの標準業務と資格職能に関する調査研究 5 ―実施例からみた職務内容について―
○鈴木 真人・増子 順一・若井 正一・湯本 長伯
- ・音声情報伝達評価におけるバイノーラル収録・再生システムの適応性 ―音像定位に関する実験的検討―
○石丸 悠子・濱田 幸雄

＜教育に関する部会・研究報告＞

- ・SMILを用いた教材コンテンツの開発
○浅里 和茂・八町 雅康・千葉 正裕
- ・建築学分野における情報教育に関する一考察 ―マルチメディアを活用した授業の現状と展望―
○若井 正一
- ・高校教育研究V 新しい時代の工業高校
○永田 進(島田工高)

日本インテリア学会第13回大会研究発表

開催日：平成13年10月9日 於. 新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ

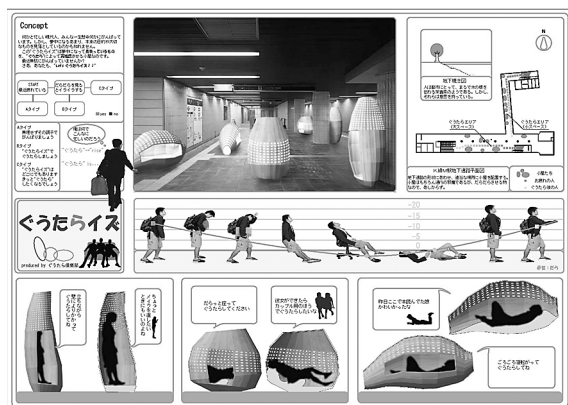
- ・就寝に必要な身体領域に関する研究
―箱状寝具を想定した就寝まわりの必要スペースについて―
○伊東 克巳(日大大学院)・若井 正一
- ・通過移行動作時の身体動作特性に関する一考察
○野崎 弘之(日大大学院)・若井 正一
- ・インテリアの標準業務と資格職能に関する調査研究 その4 実施例からみた職務内容の実態調査報告
○鈴木 真人(日大大学院)・増子 順一・岩澤 昭彦・栗山 正也・湯本 長伯・若井 正一
- ・Guru/Guru Kitchen 可変キッチンの可能性を試みる
○栗原 隆(日大大学院)

学 術 論 文

- 滝沢雄三, 野村 敏, 関澤勝一, 佐藤 平:「生活関連施設の利用から見た地方都市高齢者の生活圏に関する研究」
日本介護福祉学会介護福祉学, vol. 8, pp. 79-88, 2001. 10
- 市岡綾子:「児童期の地域における遊び環境と帰属意識に関する研究」
日本建築学会計画系論文集, 第550号, pp. 129-134, 2001. 12

東北学生設計競技において 優秀賞受賞

学部4年の伊藤匠君(若井研), 木下裕介君(土方研), 今田建治(土方研)の3名は, ㈱シェルター主催の「東北学生設計競技2001」において優秀賞を受賞した。



受賞作品「ぐうたらイズ」

新任の先生

助手 市岡 綾子

所属：計画系(若井研究室)



建築学科の皆さま, はじめまして。
私は, 千葉大学建築工学科を卒業後, 東京大学大学院で子どもの環境行動に関する研究を行ってまいりました。その後数年間勤務した社団法人文教施設協会では, 学校施設や学校用家具等を調査研究しておりました。この度ご縁あって, 生まれてから過ごしてきた東京を離れ, 初めて東北の地, 郡山に参りました。着任当初は風の強さに驚きましたが, 都会育ちの私にとって山を見ながら生活することに幼い頃から慣れておりましたので, 永年の夢がかなった次第です。建築学科では久しぶりの女性教員という大役を仰せつかり, 小柄な私にはいささか荷が重いように思いますが, このような機会に恵まれましたことを誠に光榮に存じております。これから後に続く人達のためにも精一杯努力する所存です。郡山の広い空のもと, 諸先生方や学生の皆さまとともに楽しく学び, 研究していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

平成13年度 卒業式・修了式における表彰者 平成14年 3月25日

■日本大学「優秀賞」(日本大学総長表彰、学術・文化部門)

受賞者：大学院 栗原 隆

受賞理由：日本住宅設備システム協会主催の競技設計において経済産業大臣賞を受賞

■日本大学工学部「優秀賞」(部科校長賞、学術・文化部門)

・受賞者(団体)：伊藤 匠(代表)、木下 裕介、今田 建治

受賞理由：(株)シェルター主催の東北学生設計競技2001において優秀賞を受賞

・受賞者(個人)：今田 建治

受賞理由：日本建築家協会東北支部主催の東北建築学生賞において奨励賞・みやぎ建設総合センター賞を受賞

■日本大学工学部「優等賞」

優等賞は、卒業生の中から成績優秀者に与えられる学部顕彰で、建築学科では下記の3名が受賞

受賞者：池田 勉、新関 智尋、清 利幸

■「斎藤賞」、「北桜賞」

当該各賞は、大学院修了者の修士論文の中から選考の上、決定される賞

・斎藤賞「細長い平面形を有する建物の立体振動性状」横尾 忠幸(指導教官 千葉正裕助教授・倉田光春教授)

・北桜賞「特別養護老人ホームにおける入居者の居場所利用に関する研究」山本 渉(指導教官 佐藤平教授)

■「桜建賞」

桜建賞は、日本大学建築系卒業生で組織する桜門建築会の顕彰制度による学部の卒業研究に対する表彰

・卒業論文「GAを用いた構造デザイン支援システム ～GUIによる感性抽出法～」

青柳 政寿・古谷 佳奈子・宮谷 政之・横尾 真介(指導教官 倉田光春教授)

・卒業論文「耐水性せつこう系人工木材の開発」宇秋 哲也(指導教官 大濱嘉彦教授・出村克宣教授)

・卒業論文「福島県内における住宅改造・改修に関する研究」

小澤 真紀・國分 千寿子・増子 浩美・横山 真里(指導教官 松井壽則助教授)

・卒業論文「小学校における教室用机の使用実態に関する研究」

小杉 香織・島田 里実(指導教官 若井正一教授)

・卒業設計「KUMAMOTO International Airport」

佐藤 達郎(指導教官 三浦金作助教授)

■日本建築学会の「建築設計資料集成(拡張版)」編纂委員会において、**若井教授**が人間編の幹事、**市岡助手**が物品編の執筆委員を委嘱された。

■**土方助教授**は、8月28日に、二本松市の若宮・松岡まちづくり連絡協議会主催講演会で「二本松市のまちづくり」と題して講演された。

■**土方助教授**は、9月1日に、福島県より福島県建築審査会委員・会長代理を再任された。

■**土方助教授**は、9月3日に、福島県より、うつくしま未来博「森」と融合する21世紀のまち」コンテスト審査会の委員長を委嘱された。

■**土方助教授**は、福島県より福島県まちづくり懇談会(会津方面)9月4日、相双方9月11日、いわき方面9月12日)のコーディネーターを委嘱された。また、10月25日の福島県まちづくり懇談会有識者会議にも参画した。

■**土方助教授**は、9月6日に、(社)全日本土地区画整理士会より、第17回区画整理How-Toセミナーのパネルディスカッション「住民がすすめる街なかづくり」のコーディネーターを委嘱された。

■**土方助教授**は、9月21日に、郡山

市より郡山市東部森林公園整備事業検討委員会の委員を委嘱された。

■**若井教授**は、白河市より白河都市景観審議会会長を委嘱された。(10月4日、任期2年)

■**土方助教授**は、10月17日に、全国建築審査協議会主催の第48回全国審査会長会議・意見発表会「建築確認・検査の民間開放、建築基準の性能規定化等、新たな建築規制制度のもとで、今後の建築行政のあり方について」の座長を務めた。

教室ニュース

■**倉田教授**は、10月21日に郡山市ふれあい科学館スペースパーク内(ビックアイ多目的研修室)にて、日本建築学会東北支部主催の親と子の建築講座において「建物のひみつ、かたちとつよさ」と題して講演された。

■**若井教授**は、私立大学情報教育協会編「授業改善のためのITの活用」(共著)を執筆された。(11月1日)

■**今田建治君**(4年、土方研)は、11月9日、(社)日本建築家協会(JIA)東北支部主催の「第5回JIA東北建築

学生賞」において奨励賞を受賞した。

■**土方助教授**は、11月22日に、郡山市より、郡山市の景観形成を考えるシンポジウム・パネルディスカッション「これからの郡山市にふさわしい景観づくり」のコーディネーターを委嘱された。

■**伊藤匠君**(4年、若井研)、**木下裕介君**(4年、土方研)、**今田建治君**(4年、土方研)らは、11月22日に(株)シェルター主催の「東北学生設計競技2001」において優秀賞を受賞した。

■**若井教授**は、西白河郡西郷村より西郷村住宅マスタープラン策定委員会の委員長を委嘱された。また、増子院長は、同幹事会の幹事長を委嘱された。(11月26日)

■**土方助教授**は、11月27日に福島県景観アドバイザー派遣事業により、川俣町景観条例等策定検討会・景観セミナーにおいて「景観とまちづくり」と題して講演された。

■**人事**：小栗助教授は、9月18日付で定年退官された。なお、引き続き非常勤講師として在職される。**市岡助手**が、10月1日付で新たに赴任された。